

ほっかいどうの社会保障

2011年7月22日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

すべての子どもが豊かに育つために公的保障の拡充を！ —保育制度を解体する「子ども・子育て新システム」はやめて—



7月21日夕方、北海道保育団体連絡会と札幌保育連絡会は、「保育を市場化し、国と自治体の責任を後退させる『子ども・子育て新システム』ではなく、子どもに関わる予算を増やして子育て支援施策の拡充を求める」宣伝、署名行動を行いました。

保育士をはじめ子育て中のお母さんなど30人以上

が参加して、わずか45分間で128筆の署名が集まりました。

北海道でもすでに15万筆の署名が集まり全国的にも運動が広がっていますが、政府は今の延長国会に法案提出を狙っています。これまで、保育料金は親の収入に応じて決められていましたが、この制度では料金は一律で、親の労働時間などで子どもによって保育時間はバラバラになります。また、営利を追求する企業も参入し、これまで決められていた施設の面積や子ども当りの職員数などの保育環境の基準も緩和され、今でも狭い施設にさらに子どもを詰め込むことになってしまいます。国と自治体の責任で予算を増やして、認可保育所を増やして待機児童の解消や、子どもを守る基準の引き上げこそ必要です。



保育所の最低基準の引き下げ狙う パブリックコメントへ投稿を

しかし、厚生労働省は、すでに、地域主権改革によって、最低基準の切り崩しの一環として、保育所の面積基準の緩和の提供自治体の案（35自治体）や、家庭的保育の無制限な拡張の案について、パブリックコメントを募集しています（締め切り8月13日まで）。子どものいのちと権利を守る立場からの意見を積極的に投稿しましょう。

9・11北海道社保学校 分科会の内容ほぼ決まる！

7月19日、第4回社保学校実行委員会が行われ、4つの分科会の内容がほぼ決定しました。

第1分科会 どうなる、どうする介護保険

使えない介護保険の現状や、本来あるべき介護保障を中心に、介護事業関係者だけでなく幅広い方が学びあえる内容に工夫します。改定された介護保険法による影響も。小講演、報告者など検討中です。

第2分科会 貧困の広がり、生活支援の取り組み

道内各地で行われている相談・支援活動を交流し、自立支援している活動についても学ぶ分科会です。自立を支援している全国の取組を視察した佐藤宏和・道生連事務局長からも報告してもらいます。

第3分科会 相談員養成講座

「生活保護」と「雇用問題」についての相談員を養成する講座です。「生活保護」は、細川久美子・道生連副会長、「雇用問題」は、木村俊二・札幌地区労連事務局長に講師をお願いしています。質疑時間もあります。

第4分科会 ワールドカフェ『社会保障と受益者負担、自己責任を考える』

カフェにいるような感じでリラックスして自由に討論できるという形態で、社会保障について学習する分科会です。



ポスターができました。募集要項もまもなく完成します。誘い合って参加しましょう。